

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月31日

事業所名 WALLESS ACADEMY

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	0	個別支援における適切なスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	8	1	2	法令に遵守した職員数を確保しています。	いつもあと1人足りない感じがする
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	4	2	バリアフリー化はされています。 現在、車いす利用者はいない	通路が狭い箇所や、車いすの方が来られるスロープ、手すり等の設置。車いすの方は、エレベーターは難しいです。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	4	1	毎月社内全体で研修を行い確認している	振り返りの不十分さ、参画していない職員もいると思う。 現在マニュアル制作中
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1	0	頂いた結果をもとに改善策を講じている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	1	ホームページにより公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	6	3	第三者評価は行っておらず、保護者と事業者の二者評価のみ行っています。 第三者による外部評価については、今後必要に応じて実施を検討します	
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	0	研修は様々な分野の外部(講師)から専門的な学びを得ている。 社内での研修が実施出来ています。 学びの機会が確保されている。		

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	0	支援初期のアセスメントから始まり、支援を実施していく中で保護者のニーズも汲み取りながら包括的アセスメントによって計画を進めています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	3	1	子どもの支援内容に合わせたアセスメントツール及びLD特性児童に対しても「読み書きアセスメント」を整備しています。	一部標準化されていない物を使用している事もある
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	2	0	管理者を中心に利用者の支援内容を考えている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	2	0	クラスの中で感じたことを他の先生と共有し、他の活動で出来ないことはないか、レスパイト的な視点で意見を聞くようにしている。 利用者の様子にも合わせているが、変容は必要。 それぞれのスタッフの専門性や知識を活かして工夫している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	3	学校生活や家庭生活での課題に対して支援をしており、平日、休日で支援内容を変えることはありませんが、長期休暇中は児童の楽しみたい気持ちに沿った活動を取り入れます。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	5	2	基本的に個別支援を目的として実施しており、集団活動については現在予定していません。 特例で必要に応じて他利用者と活動したり、複数のスタッフと共に活動	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	2	0	毎朝の打ち合わせにて、その日の担当や支援内容について確認をしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	6	1	支援の前後で担当スタッフの方に、前回の様子や方針について話しを何うようにしています。 朝礼及び定期的な社内カンファ、または支援終了後、必要があれば関係スタッフのみで申し送りをする。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1	0	日々記録をとることは徹底されています。 支援の検証・改善につなげる他、保護者にも支援経過報告書として毎月お渡ししています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	0	0	モニタリングの時期に合わせて見直しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	3	0	ガイドラインの総則の基本活動を参考にしながら支援を実施しています。	ガイドラインを知らない職員がいる
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	1	児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	10	0	1	保護者を通じて学校との情報共有を図っています。また、メールや電話等で関係機関との調整は行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	6	0	医療的ケアが必要な子どもの受け入れは現在ありませんが、必要に応じて検討していきます。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11	0	0	移行支援会議には積極的に参加し、情報共有をしております。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	2	0	相談員を通じて、これまでの支援内容が適切に共有できるよう心掛けております。	マニュアル制作中
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	2	2	自治体の各機関を含めた連携会議に積極的に参加して助言を受けようとしています。	研修時間と就業時間が重なるため、参加が難しい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	0	8	これまで学校以外との地域資源との交流はありませんが、子どもが地域で過ごす上で重要と捉えており、機会があれば積極的に関係を構築していきます。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	4	4	定期的実施される自立支援協議会に参加しています。	把握していない、参加しているかわからない

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	2	0	毎月お渡ししている支援結果報告書等や、支援後に保護者様と支援内容や様子を伝える時間を持つようにしています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	11	0	0	年に数回、ウォレス独自でペアレントトレーニングとペアトークを開催しました。担当スタッフが中心で、積極的に保護者と関わり支援や保護者同士で学びを深め実践頂いてい	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	1	0	契約時に説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0	0	保護者からの悩みに対して、公式ラインを活用してもらい必要な助言提供やお子様の支援中にお話する機会を設けています	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	2	1	ペアレントトレーニング、合同イベント等で保護者同士交流をもっていただけるようにしている ・ペアトークを定期的に実施	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	1	0	問題点や課題のご指摘があれば、社内で検討し、今後の支援に活かしています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	1	定期的に公式LINEやSNS、ブログでの活動報告を行っています。会報の代わりに支援記録を、毎月共有しています。	
	35	個人情報に十分注意している	10	1	0	利用者の個人情報を記載した書類は、鍵付きの収納棚に保管しています。	個人差があると思う
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	0	分かりやすい言葉がけや、丁寧な対応、礼儀を心掛けています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	5	年に一度、合同イベントを開催し、ウォレスでの支援や事業内容を	今後も検討していきたいと考えています。
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	2	1	各種マニュアルは整備しており、職員間での周知はできています作成出来ています。	保護者向けに定期的に確出来るように整備していきます。	

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0	避難訓練、その他必要な確認を行っています。（職員のみ）	避難訓練の様子や報告はSNS等にて発信しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	0	マニュアルを策定し、職員研修を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	3	0	現在、身体拘束を必要とする場面はありません。 マニュアルを整備し、必要とされる場合は事業所内で検討し、保護者の了承を得たうえで計画に記載します。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	3	2	アレルギーは把握しているが、食物は取らないため、具体的な対応は行っていない。	行事等でお菓子をお渡しの際は、保護者に確認しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	0	ヒヤリハット案件が起こった場合、その都度レポートを作成している	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月31日

事業所名 WALLESS ACADEMY

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	0	個別支援における適切なスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	10	0	1	法令に遵守した職員数を確保しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	3	部屋には最低限の物だけを置くようにしています。 階段に行かないように安全用の柵を設置	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0	1	児童の活動内容に合わせて部屋の広さは調整しています。	土足で入っていいところをはっきり区別されていない
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9	0	2	定期的に社内会議を行い、より良いサービスの提供に向けて話し合いの場を設けています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	1	頂いた結果をもとに改善策を講じています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	2	ホームページにより公開しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	0	8	第三者評価は行っておらず、保護者と事業者の二者評価のみ行っています。	第三者による外部評価については、今後必要に応じて実施を検討します
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	0	研修は外部(講師)、社内での研修が実施出来ています。 学びの機会が確保されている。	

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	2	支援初期のアセスメントから始まり、支援を実施していく中で保護者のニーズも汲み取りながら包括的アセスメントによって計画を進めています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	4	子どもの支援内容に合わせたアセスメントツール及びLD特性児童に対しても「読み書きアセスメント」を整備しています。	使用方法の統一は今後必要
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0	1	ガイドラインの総則の基本活動を参考にしながら支援を実施しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0	0	支援計画をもとに支援内容を行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	0	0	管理者を中心に利用者の支援内容を考えています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	0	基本的には個人活動だが、必要に応じて検討し、他利用者さんと活動したり、複数スタッフと一緒に活動している・集団はなし	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	4	基本的に個別支援を目的として実施しており、集団活動については現在予定していません。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	2	毎朝の打ち合わせにて、その日の担当や支援内容について確認をしています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	5	必要があれば、個別に申し送り等を行っています。必要に応じて情報共有、伝達事項は必ずメモを残す	必ずはできていない
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	0	日々記録をとることは徹底されています。支援の検証・改善につなげる他、保護者にも支援経過報告書として毎月お渡ししています。	
20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0	0	モニタリングの時期に合わせて見直しています。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	1	児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	2	相談員を通じて、これまでの支援内容が適切に共有できるよう心がけています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	0	2	医療的ケアが必要な子どもの受け入れは現在ありませんが、必要に応じて検討していきます。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	0	2	医療的ケアが必要な子どもの受け入れは現在ありません。	必要に応じて検討していきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	0	移行支援会議には積極的に参加し、情報共有をしております。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	0	移行支援会議には積極的に参加し、情報共有をしております。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	3	自治体の各機関を含めた連携会議に積極的に参加して助言を受けようとしています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0	7	保育所等訪問支援にて、交流している様子を観察、支援しています。	個別療育のため実施不十分
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0	6	定期的に実施される自立支援協議会に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	1	毎月お渡ししている支援結果報告書等や、支援後に保護者様と支援内容や様子を伝える時間を持つようとしています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10	0	0	ペアレントトレーニングを独自のプログラムで定期的に開催している	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	0	契約時に説明を行っています。	

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	1	ガイドラインの総則の基本活動を参考にしながら支援を実施しています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	0	保護者からの悩みに対して、公式ラインを活用してもらい必要な助言提供やお子様の支援中にお話する機会を設けています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	4	ペアレントトレーニングやイベント等、保護者様同士の交流の場を設けている	今後も定期的な開催を検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	0	保護者からの悩みに対して、公式ラインを活用してもらい必要な助言提供やお子様の支援中にお話する機会を設けています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	1	定期的なブログ、SNS発信は行っている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	1	利用者の個人情報を記載した書類は、鍵付きの収納棚に保管しています。	個人の判断になっている部分もある
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	0	利用者や保護者の状況や特性に応じて配慮しています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	0	6	個別対応の特徴上、行事など行いにくい	今後、必要に応じて検討していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	1	各種マニュアルは整備しており、職員間での周知はできています。避難訓練についてはSNSやHP等で保護者へお知らせしています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	0	避難訓練、その他必要な確認を行っています。（職員のみ）避難訓練の報告についてはSNSやHP等で保護者へお知らせしています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0	1	ご家族に契約時確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	4	食事提供はありません。クリスマスなどでお渡しのお菓子等については、保護者に確認したうえでお渡ししています。	

カ	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	0	事例が発生した場合には、職員間で共有します。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	0	マニュアルを策定し、職員研修を行っています。	
	47	このような場合にイむを待り身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	3	対象がありません	